

レトロカルチャー時代における「懐かしさ」の記号

星川 彩 (大阪大学大学院)

本発表の目的は、音楽劇『海王星』を手がかりに、今日ポピュラーカルチャーの領域において 60 年代的イメージがいかに表象されているかの一端を明らかにすることである。

過去の文化事象や、過去の文化事象にまつわるイメージを享受する行為は、今日ひとつのエンターテイメントとして成立している。ある表現に対して過去のイメージを見出し、享受することには特定の美学が存在しており、その美学はあらゆる時代の音楽、映画、アニメ、マンガ、ファッション等のポピュラーカルチャーにおいて見られる。特に音楽について考えてみると、たとえば Jean Hogarty は、現代が「ポピュラー音楽の過去の亡霊が占拠する、レトロカルチャーの時代」であると指摘する。この Hogarty の指摘は、過去の楽曲の聴取に伴う享樂のありようが、今日変化しつつあることを示唆するものであろう。そしてこの「レトロカルチャーの時代」という語は、過去のイメージを享受する行為が、以前にも増して大きな意味を持っていることを含意しているのである。

そこで本発表では、「レトロカルチャー時代」における音楽表現の一例として音楽劇『海王星』を取り上げ、過去のイメージを享受することの今日的な意味合いについて、広く検討することを試みる。『海王星』は詩人、劇作家、映画監督、文筆家、写真家、シナリオライター、競馬評論家などの多数の肩書を持つ寺山修司 (1935-1983) の未上演作品であり、昨年 12 月にはじめて上演された。寺山の作品群は、没後 40 年が経過した現在でも多くの文化領域に影響を与え続けているだけでなく、日本における 60 年代のアンダーグラウンド文化を代表するアイコンとして機能している。「音楽劇」と銘打たれた『海王星』に登場する音楽表現の数々は、60 年代の文化事象が今日いかに捉えられているかを検討する際の適切な参照点となろう。本発表を通じて、「レトロカルチャー時代」における過去のイメージ——「懐かしさ」がどのような記号として機能しているかを検討してみたい。

主要参考文献

Jean Hogarty, *Popular Music and Retro Culture in the Digital Era* (New York: Routledge, 2017)

Julian Cope “*Japrock sampler: How The Post-war Japanese Blew Their Minds On Rock’N’Roll*” (London, Bloomsbury, 2007)

日高勝之『昭和ノスタルジアとは何か——記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学』、世界思想社、2014 年。

堀江秀史『寺山修司の一九六〇年代——不可分の精神』、白水社、2020 年

参考ウェブサイト

PARCO PRODUCE 2021 音楽劇『海王星』公式ホームページ

(<https://stage.parco.jp/program/kaiousei>) [2022.08.11 閲覧]